理研会報

発行
印教研　理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948の1

平成元年度 理科作品展終わる!!

九月二十七日～二十九日まで、成田小学校を会場として郡の理科作品展が開催されました。先生方のご協力により、作品展も三十七回となり、優秀な作品が数多く出品されました。今回はその報告をします

審査講評

◎科学工夫の部

本年も理科工夫工作の部に、各部会より選抜された八十七点の作品が出品されました。その中から金賞として、小学校十四点、中学校四点が選ばれ、ました。さらに奨励の意味をこめて、郡金賞が小学校六点、中学校一点が決まりました。

作品の傾向は、例年通り、小学校低学年では、動くオモチャのような遊具的な作品が主流をしめ、学年があがるにしたがい、学習や生活の中にヒントを得た作品が目立ちました。

工夫工作の審査を通して感じたことは、「ここをこうすれば～」という子どものアイデアが十分に生かされていない作品が多く見られました。出品前には、忙しいとは思いますが、教師の指導、助言が一言ほしいなと思いました。

今後、さらに理科工夫工作を発展させるために、次のことについて考え、実践してほしいものです

(1)、学習や生活の中で、物を作る喜び、遊ぶ楽しさを体得させる。その中から子どもらしいアイデアを発見、育てて生かせたいものです。特に小学校においては実践してほしいものです。

(2)、雑誌で発表されていたり、商品化されているものでも、もう一度作り返していく中で、それとは違ったアイデアを産み出していくということもあります。また、さらに工夫を付け加えるということもできます。

大切なことは、大人を含めて、生活（学習）の中で物を作る喜びを知り、使う（遊び）楽しさを知ることが基本だと思います。

来年度、さらに楽しい作品が出品されるよう期待しています。

◎科学論文の部

一、小学校の部

長期にわたる根気の入った作品が多く見られたのはすばらしく、評価すべき点である。継続観察によって、生命を維持していく動植物の姿に感動する観察者の心が紙面を通して伝わってくるものがあった。また「あともう少し」「ここが抜けていて～残念」と思われる作品が少なくない。

研究を進めていく上で、子どもの着眼（発想）が継続した観察研究になるためには、指導者の始めの時点での指導助言が大切であるまた、基本的なことであるが、研究の動機、方法、内容（テーマ）をしっかりふまえて結論に至るまでの一貫した観察研究が大切。

二、中学校の部

新しいテーマについて研究したものの、身近にある素朴な現象に目を向けたもの、追試することに力点をおいたもの等々、研究の素材の求め方が多方面にわたっている。大変好ましいことである。また、パソコンによるデータ処理も見られ、これからの新しい傾向を見る思いがした。えられたデータを如何に生かしていくかは、論文の成否を決めるものであり、読み手を説得する上でのキーポイントにもなる。

三、総じて

豊富な資料、データを持ち込んでの力作が多く見られたが、子どもだけに預け放しではなく、事前一事中一事後における指導者（含親）の適切な助言指導が、子どもの意欲をかきたてる上でもおおいに望まれるところである。

◎標本の部

標本の部に集められた生物は、小学校では、昆虫・貝類・クモ類植物であったが、中学校では植物のみであった。小中学校とも自宅周辺に自制している植物を集めてきて、植物採集として出品された作品が多かった。例年ことながらこのような作品は何のために採集し、保存するのかという目的がはっきりしないものが多い。自宅周辺の植物を集めたといわれても一種残らず完璧に採集してくることは困難である。それならば、観点や目的がはっきりしている標本作成の方が評価されるものと思う。

もちろん、このような観点で出品された作品がいくつかみられた「つる植物」に限ったとか、一つの地域を設定して、環境を分析しその中の植生を一部採集したとかである。しかも、実物の標本のみならず、生息環境の写真や図もそえられており、効果的であった。

植物採集は場所を明確にして、目的をはっきりした採集にしてほしいものである。また、種を限定し、四季を通じて（発芽から枯れるまで）の変化も標本化していったり、類似植物の比較分析を丁寧にやったりという工夫も大切であると思う。

いずれにしても、標本として保存するからには、丁寧な処理、保存技術の確実さ等が大切となってくる。来年度以降の作品に期待をしたものである。

《工夫工作の部》

学年	氏名	作品名	学校名	備考
小1	山中栄二	はたあげロボット	成田小	
1	小倉かなえ	まんげきょうとじしゃくあそび	上志津小	
1	子安登	ローブウェイ	酒々井小	郡
2	石井明宏	ゆれるカブトムシ	大室台小	
2	山岸エリカ	たのしいブランコ	四和小	
2	米田めぐみ	どちらがかつかヨーイドン	栗山小	
2	吉田美穂	おもりでうごくおもちゃ	大森小	郡
3	高野純一	ヒヨコがピョン	佐倉東小	
3	鈴木普幸	カメ	四・南小	
3	渡辺秀和	ボーリングゲーム	永治小	
3	鶴志田梓	へびの宝物	中央小	郡
4	今泉光	火山と海のなかまたち	向台小	
4	斎藤めぐみ	レターウェイター	二州小	郡
5	島塲啓輔	電動自動車	みそら小	
5	青田智行	忘れ物防止本箱	白井三小	
5	千綿健介	自動水やり植木ばち	小竹小	
5	佐藤亜希子	ソーラーボックス	向台小	郡
6	中村威信	水圧計	王子台小	
6	千田勇武	自動水やり機	栗山小	
6	山本直行	天体ビーム	下志津小	郡
中1	木村あすか	ページめくり	富里中	
1	三宅英理	光電変換装置	井野中	郡
2	山本知美・志田真由美	はえたたき	佐倉中	
2	熊谷麻理・三浦裕子	地球から見た金星の満ち欠け	大山口中	
3	高田実	カラカラ	千代田中	

《論文の部》

学年	氏名	作品名	学校名	備考
小1	大輔	あさがおのかんさつ	実住小	郡
2	三田武	ナナフシのかんさつ	根郷小	
2	大木真由美	ヒマワリ	朝陽小	
3	荒川絵衣子	自然はまじゅつし	四街道小	
4	柳谷裕紀子	スズ虫の観察	安食台小	
4	波部裕樹	水の温まり方	実住小	
4	藤咲悦子	たんぽぽのたくましさ	実住小	郡
5	井上祐介	タンポポの発芽と光の関係	成田小	
5	辻野志穂	カビの研究	四・南小	
5	須藤勝則	除草剤の害についての研究	船穂小	郡
6	細川由美	畑や林・庭に生きるクモ	日吉台小	
中1	中田泰幸	振り子の実験	井野中	
1	林田裕一・相羽陽行	環境と植物（花）	千代田中	
2	石田裕樹	くもの巣とゴミ	南部中	
2	能信一朗	ペルセウス座流星群の観測	吾妻中	郡
2・3	斉藤靖朗・矢野仁	土壌菌類の研究	千代田中	

《標本の部》

学年	氏名	作品名	学校名	備考
小1	和弘	昆虫採集	酒々井小	
1	深田岳大	いろいろな草	朝陽小	
2	金井奈緒	いなかのおしばな	栗山小	
3	湯浅梨恵	成田の貝化石	八生小	
4	押田友昭	薬草採集	船穂小	
5	宮垣博行	薬草植物採集	内郷小	
6	大三川勝人	葉のつき方	酒直小	
6	渡辺太志	神々廻地区の昆虫	白井一小	
中1	上野温江	日かげの植物の研究	印旛中	
1	青木友子・宇田川美穂子	林の中のつる植物と草下草	千代田中	
1	金木正子	キノコ・コケの腐本	千代田中	
2	土屋美智子	薬草、押し花集	千代田中	

※標本は、県展に出品いたしません。

※備考欄に「郡」とある作品は、県展に出品いたしません。

※かぎ、県展は10月23日（土）～10月30日（月）までの間千葉県総合教育センター（科学技術センター）において展示されています。

入賞点数　54点

工夫工作	25点	（18点）	54点（20点）
科学論文	16点	（12点）	
標本	12点	（0点）	
自作教具	1点	（0点）	

出品点数　293点

工夫工作	86点	（87人）	292点（309人）
科学論文	135点	（150人）	
標本	71点	（72人）	
自作教具	1点	（1人）	